

林檎

岩手Mac友の会

Vol. 1, No.4 1989.8.10

Iwate Macintosh Funclub

第一回セミナー

去る7月8日、上田公民館に於て岩手Mac友の会主催による記念すべき第一回セミナーが開催されました。多数お越しいただきまして有難うございました。

さっそく状況を報告します。

1.参加者

およそ30名(新規入会者有り)

2.剰余金

必要経費を差し引いた剰余金が約2万円程有りましたので、会の運営費に繰り入れることにしました。

3.使用機器

今回のセミナーでは、岩手科学社の村上さんのご好意で、コダック社のKODAK DATASHOW HR/M Projection Pad (マックの画面をOHPに写し出す装置)をお借りして使用しました。

4.テーマ

はじめのハイパーカード
～入門からグラフィクスまで～

5.講師

佐々木幸司さん(盛岡市役所)

6.内容

前述のプロジェクション・パッドによって、マックSEの画面をスクリーンに写し、佐々木さんがあらかじめ用意した説明用のスタックウエアを、講師自身が操作しな

がら、解説しました。ハイパーカードの基本的な操作説明に始まり、優れたグラフィクス機能の使い方まで進んだところで、休憩になりました。

休憩の後、簡単なオリジナル・スタックの作り方と、HyperTalkの簡単な解説がありました。

7.感想

簡単な解説とはいうものの、ハイパーカードの優れた機能の一部をかいま見た参加者の多くは、これを機会にハイパーカードを使って見ようと思ったようです。

また、お借りしたData Showの威力は絶大で、効果的なセミナーができました。

講師をはじめスタッフの皆さん、ご苦労さまでした。なお、使用したスタックは佐々木さんにお願ひすれば、コピーしていただけるとお思います。

セミナー委員決定

募集していたセミナー委員が決定しました。

第一回セミナーの会場で、セミナー委員を募ったところ、教育センターの佐々木俊光さんが手を上げたのを幸いに、集まった皆さんの賛同を得て同氏にお願ひすることにいたしました。

教職ではありますが、このような会の運営は初めてのこととお思いますの

で、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

マックファン大集合

日経MIX(パソコン通信)参加者を中心とする、マックを愛する人達の会合が、東京で過去2回盛大に開催されています。(前回参加者120名!)

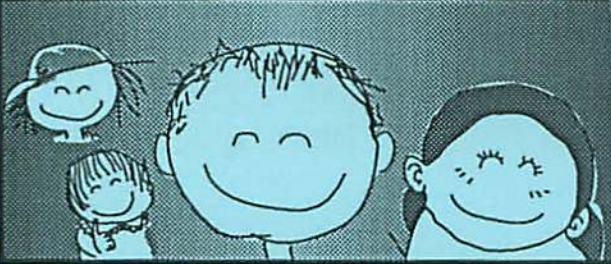
この、盛岡分科会をIMF主催で開催します。その名もMeet the Mac in Morioka。会場は未定ですが、日時は9月16日(土)18:00からと決定しています。全国から有名人が集まりまので、楽しみにして下さい。

Inside

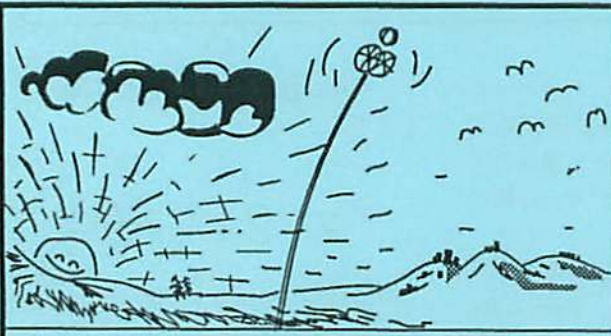
私のMac Life	2
私の日本語環境	3
Meet the Mac.	6
英文コラム	7
林檎ギャラリー	8
茶房	9
NeXTが日本にやってきた	10
山の花	12
林檎ギャラリー	13
Arch Net Now	14
会員だより	16
余計なお世話	18
掲示板	19
会員名簿	19
編集後記	19

私のMacLife

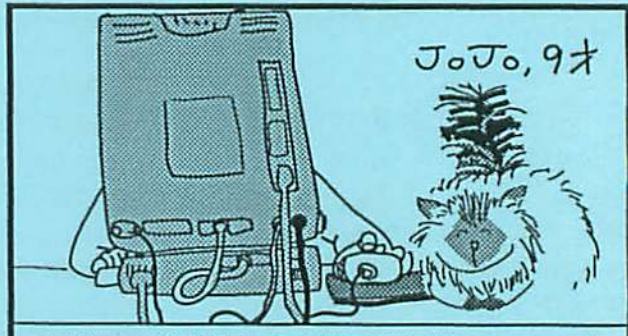
徳富の場合



朝食をとりながらAFDAlogを読み漁り、夕食をとりながらMacWorldを、トイレの中でMacJapanを読むのが私の読書習慣です。もちろん髷髷を買っています。



朝日が、今だに片付けていない鯉登りの矢車に当たってから間もなく起きてMacに火をいれ、私の一日のMacLifeが始まります。さわやかです。



夕食後は、大峠茶屋のトチ蜜の水割を飲みながら、子供が寝るまでのひと時QuarkXPressを主に使ってひと仕事します。もちろんBBSにもアクセスします。



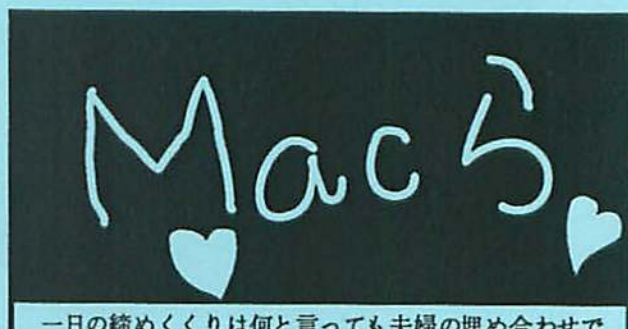
長男が小学校に行くのを一家で見送った後、朝シャワーを浴び、仕事前のひと時、Macに向かいます。システム手帳の確認やプリントアウトなどをします。



子供が寝た後の夫婦の時間はExcelで家計簿をつけることで始まります。一日の反省、明日の予定、愛しているよなど、夫婦の会話が一番楽しいひと時です。



仕事の間は全力投球。でも、2年計画でMacを導入予定なので、アイデアが浮かべばメモはとります。



一日の締めくくりは何と言っても夫婦の埋め合わせですね。歳をおうごとに高まってくるので、最高に幸せな私のMacLifeです。

私の日本語環境



Macに限らずパソコンのパーソナルユースに必ずと言って良いほど登場するのが「ワープロ」と「スプレッドシート」ではないでしょうか。日本語に弱いMacと言われながらも、「日本語フロントエンドプロセッサ」「日本語ワードプロセッサ」「アウトラインプロセッサ」が続々と発売され、今やMacも日本語に堪能になりつつあります。多数のソフトが出回ると嬉しい半面、どれを選んで購入したら良いのか迷っている方も多いのではないかと思います。

そこで今回は「ワープロ」をもう少し拡大して、会員の方々に「私の日本語環境」を執筆していただきました。

執筆をお願いするにあたっては予め項目を決めて比較することも考えましたが、いざやってみると項目が決めにくい事と、各種ソフトの比較テスト記事になりかねず、テストの場合は基準や方法が大変難しい事が分かりました。そこで以下の様な項目を目安に、現在お使いの物の紹介と、評価、また使い始めたきっかけ等をあくまでも自己中心に散文的に書いて頂きました。

- 1.日本語（漢字）FEP。
 - 2.カナ入力・ローマ字入力の別。
 - 3.テキスト入力に使用しているソフト。
 - 4.書類作成、印刷に使用しているソフト。
 - 5.DTPに使用しているソフト。
- etc.

これから日本語環境を整えたいと考えている方、現在の自分の日本語環境に満足していない方の一助になれば幸いです。

Turbo-Jip派が多くなってしまいましたが偶然のことで他意はありません。



医学辞書がある

TurboJip

印刷物のqualityの低さに不満、今でも人様に見せる文章はキャノワードで

根本 聡彦

現在の私の日本語環境についてお話しします。FEPはTurboJipを使っています。EG-WordEG-Bridge.Ver4も借りて使ってみたことがありますが、結局TurboJipを使うことにしました。理由はただひとつ、医学辞書がある、と言うことです。現在の私に要求されている日本語ワープロ事情は、論文を書くこと、手紙を書くこと、BBSに書き込むこと、などにとどまっています。従ってあまり難しいワープロ作業やDTPの仕事はありません。

Macを手に入れるまでワープロはキャノワード360を使っていました。もうかなり古い機械になってしまいましたが結構優秀な機械だったと思っています。論文や抄録のほとんどすべてはこれで作成しましたし、手紙もこれで書いていました。原稿用紙に書き込むだけの作業ですので印字さえしっかりしていれば、あまり不自由しませんでした。

約3年間かけて学習させたユーザー辞書でしたから、日常自分で使う医学用語はたいてい出てきました。しかし新しい医学用語を登録する作業は結構多く、今から思えばずいぶんめんどうなことをよくやっていたなと思います。TurboJipを使って驚いたのは私が使用する程度の医学用語ならたいてい登録されており、まず新しく登録することは無いと言うことです。難しいワープロ機能がいらぬかわりに私に

とって医学辞書は無くしてはならない必需機能です。従ってTurboWRITERの登場はgood newsで、近々購入を考えています。

Macの日本語環境における不満は、やはり印刷物のqualityの低さです。確かにLaserWriterやNTX-Jなどが手にはいけば問題無いのですが、一般的な個人ユーザーには現実問題として不可能です。

今でも人様に見せる文章はキャノワードで書いていますが、まったく残念なことです。最近のワープロなら17万円です6ドットの、まるで印刷のような印字が出る、とのことですので私のようなワープロ仕事でしたらいいそのこと通信機能のあるワープロを買ってテキストをワープロに直接送信してプリンター替わりに使えないものかと考えています。



TurboJip に仮名入力

専門辞書が充実
QuarkXPressを活用
徳富 亘

1.

TurboJipを使っています。他もトライしていますが、自分にはこれが一番しっくりきています。専門辞書が大変充実しており、第二水準漢字を使った熟語もたくさん登録してあって大助かりです。連文節自動変換をうたっているのですが、2文節くらいでこまめに交換して使っています。

2.

英文は勿論英語で打ちますが、日本語は仮名入力しています。思い浮かんだ文章をそのまま手早く打ち込んでいくには仮名入力が適していると思います。キーをたたく回数が少なく済む

ということもありますが、それ以上に、頭のなかで平仮名をローマ字に変換して入力し、その平仮名を更に漢字に変換して行くという複雑な作業は、日本語が宿命的に負わされた漢字変換というハンデを更に重くしています。長いMacLifeを通じた仕事量の差はかなりになるような気がします。

蛇足ではありますが、これまで頑なにローマ字入力しか許さなかったJAMもV.4から仮名入力が選べるようになりました。

3.4.5.

これらの仕事には全部QuarkXPress日本語版を活用しています。手紙や、業務用文書は言うに及ばず、Logの整理やBBSの原稿書き、システム手帳のリフィル作成なども、全部これひとつでやっています。英語も日本語もこれ一本で行けますし、漢字でも文字化けせずにカーニングやトラッキングを非常に細かく設定できるのはこれしかありません。ただシステムソフトの製品なので、同社で扱っているRadiusアクセラレーターとの相性は十分保証されているようですが、自分のPrody4とは相性に欠ける点もあるようで、QuarkXPressに付属のユーティリティーがちゃんと動かないなどの問題が生じているのが残念なところ。またinit類との相性が悪いような所も多々あるようです。



TurboJip への不信感 EG-Brigdeと EG-Wordとの 組み合わせに好感 吉田 新二

はじめに設問にお答えしてから、私

の日本語環境の現況について報告します。誠に初歩的な状況ですので、ご助言をいただけますれば幸いです。

1.設問への回答

- 日本語（漢字）FEP
EG-Bridge 4.0
- カナ入力・ローマ字入力
現在のところローマ字入力
- テキスト入力
EG-Word 3.1
- 書類作成、印刷
EG-Word 3.1
- DPT
PageMaker 2.0

2.FEPの遍歴

MacPlusを手に入れた当初は、2.0変換を使用していたが、TurboJipを入手してからは自動変換の便利さや、コード入力の簡単さ、さらに同義語を見ることの重宝さなどのために、しばらくはTurboJipに頼っていた。あるとき、日本語Excelでの入力中に入力バーが真白になると同時に、Excel画面に固定し全く作動しなくなってしまったことがある。同じようなことがこれまで3回あったが、同じようなことがMacDrawでも経験した。以来、TurboJipへの不信感が芽生え、EG-Bridgeへと移り気し、現在にいたっている。

3. EG-Bridgeを使用しての感触

EG-Bridgeを使用してから、まだ3か月にしかならないが、現在までにまだトラブルはない。いちばん好感を持ったことは、EG-Wordとの使用で画面に直接文字入力されることである。TurboJipの入力バーの場合、文章の前後関係が解かりにくいことがある。

漢字変換機能はEG-Bridgeの方が一段勝っているように思いながら使用している。TurboJipに比べて使いにくさの点を言うと、コード入力の場合のコード番号入力に不便を感じること（不案内のためかもしれない）、同音意義語が一括表示されないことなどであろう。

4. Mac日本語環境に期待すること

日本語ワープロ機能の弱さがMacの弱点であるということは、Macユーザーの誰しもが言うことである。実は、私は文書用にNECの文豪をつかっている。Macでは公用文書にならない(未熟であるためかもしれないが…)からである。しかし、Macの日本語環境も年々急速に改善されていると聞いているので、Macで公用文書を書ける日を楽しみにしている。また、最近広告で目にするByWordとかTurboWriterなどもぜひ使ってみたいものと思っている。



仕事に応じて使
い分けることで
最適の環境を
覚え直すのが億劫な私
野村 行憲

ローマ字の泥沼

職業柄アルファベットを使う頻度が高かったのと、カナ配列を覚えるのをサボったため、ローマ字入力を使用しています。

キーボードを叩いているところを他人が見ると、そのスピードはかなりなものとなりますが、実際に入力できている文字数は、カナ入力と比べると少ないと思います。(2回叩いて1文字だから) 徳富さんの作成した、トレーナーソフトでもって練習すれば良いのですが、なかなかその気になれず、今日に至っています。

日本語FEP

最初に標準で付いてきた2.0変換は、すぐに捨ててしまい、Turbo-Jipを使っています。EG-Word 3.1を使うときには、何とんでもインライン入力ができるEG-Bridgeを愛用していま

す。こちらに移ってしまうほうが楽だと思いますが、何となく慣れもあって併用しています。MacVJEを使わない理由は、覚えるのが面倒なだけで、機能や操作性に不満がある訳では有りません。

Text Editor

ちょっとした文章を書くときは、DAタイプのエディタが便利なので、YooEditを使っています。

これはDAのエディタで、日本語のプリントアウトができ、画面とプリントのそれぞれにフォントを指定できるのが便利。多少のバグが有りますが、深刻なものはありません。

少しまとまったものを書くときは、EG-Wordを使っています。これは何とんでもインラインで入力できるからです。

もっとまとまったものときは、Voila!を使いますが、これはアウトラインの機能を求めているためです。どうしてVoila!かという、他のものを使ったことがないからで、特に理由はありません。

その他

マックの日本語環境は、だいぶ改善されたとはいえ、FEPに関しては日本製マシンに比べ、見劣りするの事実でしょう。でも漢字Talk 1.1のころから考えるとかなりの進歩が有ります。今後の改善を期待したいと思います。また覚え直すのが億劫な私です。



省メモリの
TurboJip
TurboWRITER試用中
TeachTextも使い道有り
照井 芳夫

まずFEPですがTurboJipを使っています。多くの方がそうであるようにEG-Bridgeと比較して見ました。私の場合長い文章を書くよりも技術的な内容のメモが多いので、全角・半角・英数カナの混在したテキストを作成することが多く、全角スペースが簡単に入ることやcapslockで半角英数が入ることは大変便利です。また専門辞書の存在も大きな魅力となっています。EG-BridgeはTurboJipに比べSystemが500kBも多くのメモリーを使用するので2MBユーザーには辛いのです。ローマ字入力している理由は上記の事とNEC系のキーボードとカナの配列が一部異なるためです。

とは言うものの、EG-BridgeとEG-Wordの組み合わせによるインライン入力と比べるとTurboJipの入力ウィンドはじゃまで先日Turbo WRITERを購入しました。インライン入力の具合はEG-BridgeとEG-Wordの組み合わせと比較してあまり差が感じられず、処理速度は若干早いような気がします。

BBSの原稿のように修飾の無いテキストの作成にはDAのminiWriterを使用しています。miniWriterは日本語の印刷が出来ないのでTeachTextを使用します。TeachTextはレイアウト指定が出来ない代わりにA4の用紙幅一杯にプリントしてくれるので助かります。TeachTextのフォントサイズを変えたい場合はDAの「漢字環境変更」を使用しています。

私にとってminiWriterの欠点は、複数ウィンドを開けないことで、BBSのログをカットアンドペーストで整理するときはDAのASLEdit+を使用しています。これは速度が早いからです。

この原稿はTurboWRITERのテストをかねて初めてまとまった文章を書いています。EG-Wordに比べスクロールが早いようなのでログ整理にも使えるかも知れません。

Meet the Mac

by 三浦吉範

私がMacを購入したのは1985年9月9日でした。“Dyna Mac”という機種でこれはFat MacことMacintosh 512kBにキャノン製のJIS第一水準漢字フォントROMボードを内蔵したものです。この漢字ROMはEg-Bridge、Eg-Word専用で漢字トークとは関係ありません。ちなみにこのROMボード自体はコネクタで取り外しができますが本体側のコネクタは68000MPUにしっかりと半田付けしているという恐ろしい代物でした。

私がMacを選んだ理由は、第一に操作が簡単であるということにつきます。なにしろそれまで全くコンピューターには縁がなかったもので、マウスでプルダウンメニューをクリックというのが魅力でした。そもそもMacにしようと思ってたのではなく、はじめは何となくアップルIIに興味を持ちその情報収集に東京は湯島の“ESDラボラトリー”に向向いた際にたまたまそこでMacの実物を見てしまったのです。そのデザインと表示画面の斬新さに何かしら心ひかれるものを感じました。

その直後にGEODESICから「Macintosh 感覚派のためのパソコンマッキントッシュ」安部撰子著 が出版され、これを読むや否や決心が付きましました。

こうして手に入れた “Dyna Mac”には付録としてMac Paint, Mac Write, Eg-Bridge がバンドルされておりました。Eg-Word, Multiplan, MS-File などさっそく手に入れて仕事（岩手医大臨床検査医学）に使いましたが、中でも最も使用頻度の高かったのはMac Paintです。これだけで高価なMac手に入れた価値は十分にあると信じてま

す。特に研究発表用のスライドなどすべてMac Paintで作りました。

お絵書きマシン

周囲の人はMacを称して「ただのお絵書きマシン」と言っておりました。私にとってはそれで充分でした。これだけ自由自在に頭の中で描いていることを忠実に、また時にはそれ以上のことがマウスを介してペイントできるのでからアイデアプロセッサでもあるといえます。現在はSuperPaintでさらにスムーズに行なわれるようになりました。

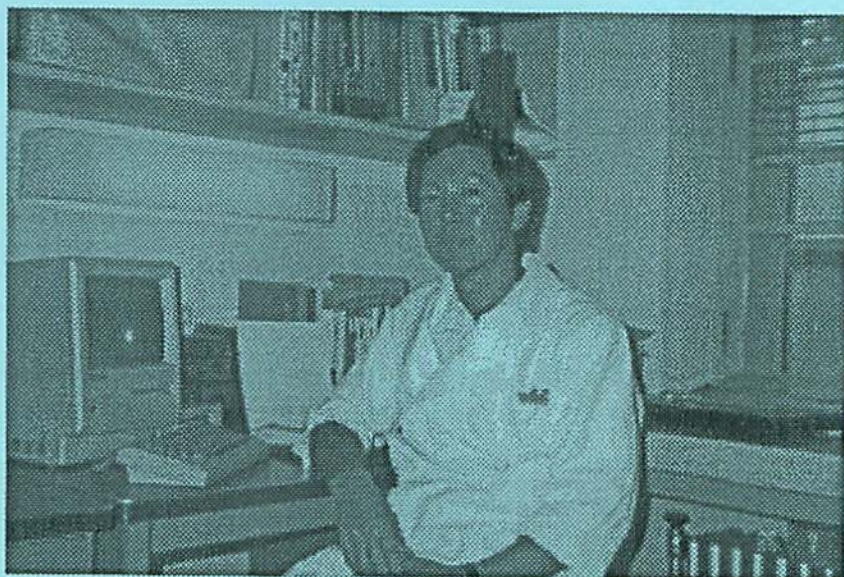
さて当時は今のように日本語版でのMac専門誌などもなく、また周囲にもMacを使っている人もいなく何かと情報には貧しい状況でありました。そんなおり1986年7月19-20日、東京の本郷で国内では初めての“APPLE CONVENTION”なるイベントが開催されると聞き、興味津々で参加いたしま

した。アップルIIもありましたが主流はMacで、各分科会の講師陣も豪華な顔ぶれがそろい全国各地から集まったアップルフリークとともに夜を徹しての熱の入ったミーティングとなりました。

Meet the 徳富

私は主にグラフィックの分科会に参加しましたが、この講師は松田純一氏で現在も各Mac専門誌のこの分野では必ずといっていいほど見かける方です。この時はビデオカメラを使つての画像入力をデモンストレーションしてくれました。それからこの分科会会場で我等「岩手Mac友の会」の牽引者の一人である徳富氏と初めてお会いし、コンベンションが終わるや否や氏の車に同乗させていただき早朝の首都高速を走って当時勤務しておられた横須賀の神奈川歯科大学の研究室に案内していただきました。そこでMacに関していろいろと教えていただきました。

このようにこのコンベンションは私にとって大変参考になると共に、Macが思ってた以上にたくさんの可能性を秘めたすばらしいマシンであることを認識させられました。



Mac生誕の地へ

その後1987年2月～1988年4月までアメリカのシアトルにある“フレッドハッチンソン癌研究所”へ留学ということとなり、もちろんMacも持っていきました。この研究所内にはMacとレーザープリンターが設置されたグラフィックルームがあり、研究所の誰もが24時間自由に使えるというもので私も大いに利用できました。おかげでこの部屋で何人かの友人まで作れました。このような研究部門でのMacユーザーが多いことも知らされました。この留学期間中にそれまでオリジナルのままだった我がMacもやっとMac Plusと同じに、内蔵のディスク装置を400kから800kにROMを64kから128k、RAMを512kから1Mにアップさせました。この作業を担当したアメリカ人は例のキャノン製のJIS第一水準漢字フォントROMボードを不思議そうにしてたのが印象的でした。

再び日本で...

そして帰国後、友の会の存在を知りさっそく入会させていただき現在にいたっております。最近先日のハイパーカードセミナーに出席して以来その魅力にとりつかれています。セミナーを見ていて特にプレゼンテーション用などに大変良いのではないかと思います。Mac友の会などに参加していると最新のソフトや周辺機器のめまぐるしい進歩には驚くばかりです。まさにMacは金食い虫で、欲しいものがどんどん出現してきます（レーザーライターが欲しい！）が、どっこい腰を据えて自分に合った環境づくりをしていきたいと思います。なにせMacとは一生付き合うことなのでしょうから。

最後に友の会の幹事と会員の皆様、今後ともよろしく願い申し上げます。

English Column

WE ALL BREATHE THE SAME AIR.....

— by Richard L. Lammers

The world is divided into many nations and we become more and more aware of their differences. We quickly notice differences when we travel to another country. Yet, isn't it more important to discover the things that make us the same?

When I went to America with some Japanese friends, one of them said to me, "It took us 12 hours by airplane to fly from Japan to America. It was a long ride and we are now far from home. But the sun shining in America is the same sun that shines in Japan. The air I breathe here is some of the same air breathe in Japan. No matter where we live we breathe the same air."

When we really think about this we understand this with our mind, but my friend was feeling it with his whole being. My friend had noticed many differences, but he was also noticing things that are the same. Every person in this world depends on the same sun, the same air, and the same rain for life. When the air is polluted on one side of the world it will be only a matter of time until the other side of the world becomes polluted with the same air. The way I live affects not only me but people all over the world.

On June 10, 1963 John F. Kennedy said:

"So let us not be blind to our differences (referring to differences between Russia and the United States)-but let us direct attention to our common interests and the means by which those differences can be resolved. And if we cannot end now our differences, at least we can help make the world safe for diversity. For in the final analysis, our most basic common link is that we all inhabit this small planet.

"We all breathe the same air. We all cherish our children's future and we are all mortal."



Ringo Gallery

実は私、マック以上に人間に興味があるのです。という、「若い女だけが人間だ」なんて声が聞こえそうですが、みえがかりじゃなくて、人間の気持ちの動き方とか、反応のしかたとか。まあ、いってみればその人の精神活動のテンプレートに興味があるのです。

精神活動にテンプレートがあるなんて、初耳ですか？あるんですよ、これが。

ま、ご自分の奥さんと結婚した当初のことを思い出してみれば心当たりがあるでしょう。

朝起きる。布団をたたむ。エッ！「おい、お前。その昆布巻きみたいな布団のたたみ方はナンダ?!」「あら、これが普通でショ?」

朝飯が用意されている。お箸が並び、茶碗がふた組テーブルの上に。エッ！茶碗が天に口をあけている。恐る恐る聞く。「あのネエ、××の家じゃ、茶碗はいつもこういう風に並べるの?」「そうよ、逆さにしたら汚いじゃない」なんて鼻唄歌ってる。内心「しまった、もっと知りあってから結婚するんだった!」と、思い始める。

普通こういうのは、習慣の違いと言います。習慣というのは行動のパターンですが、パターン化するまでは心の葛藤の末に適応して身につけますから、オリジナルは精神活動です。結婚後に新たな習慣に慣れるまで、あなたもしくは奥様には少なからぬ葛藤があったことが想像されます。

ま、これが生活習慣の類のうちは愛嬌です。どっちかが慣れます、大抵は。なにしろ人間ほど適応力がある動物はいないそうですから。

だんだん付き合いが長くなってくると意外な展開が始まります。あなたは毎日一所懸命仕事をして、会社が終わると即座に家に帰ります。「毎日こうして遊びもせず、飲みもせず、家庭第一にサービスに努めているからには女房もさぞかし喜んでるに違いない」

ある日家に帰ると奥様が泣いています。「あたし、あなたが優秀なビジネスマンだって聞いてたのに、こんなに毎日早く帰ってくるなんて、きっと会社じゃ役立たずで仕事が無いんだわ。あたし、貴方を見損なったわ」なんて言われた日にゃ、ビックリ仰天で済まなくなります。よく聞いてみると彼女の父親はいつも午前様で、母親は仕事で遅くなる父親を誇りにしてあなたの奥様にいつも言い聞かせていたことが判ります。「男はお父さんのようじゃなくちゃいけない。仕事の出来ない男は男じゃない。お父さんは皆に必要とされるような立派な人のヨ。お母さんはお父さんと結婚してよかったわ。」こんなことを子守歌がわりに聞かされて育った奥様は、世の中の男どもをこういう目で見ます。これは価値観と呼ばれていますが、基本的に育った環境の中で両親から受け継ぎます。何が価値があり、何が善いことで、何が心地良いことか。

男とは、女とは、夫婦とは。これは両親の在り方が雛形になります。当然成長する過程で修正が加わったり、新たな雛形を仕入れるわけですが、基本的なテンプレートは子

供時代に出来上がります。こういう二人が一緒になる訳ですから、うまくいく方が不思議です。夫婦の関係は、社会生活の原単位ですから、この軌道は社会にそのまま拡大されます。つまり百人に百通りの常識です。このままでは、混乱は收拾が付きませんから、一応ルールを作ります。規則、法律なんてのは必要があるんです。そのかわり常識なんてのは当てになりません。さんざん喧嘩して互いのテンプレートがよく解った間柄ならいざ知らず、「わかるはず」なんてのは、誤解曲解の始まりです。誰かが言ってるじゃないですか。

「誤解から結婚は始まり、理解して別れる」

地域の持っているテンプレートってのもあるんですネ。いい例があります。東北では、会議かなんかで議長とか司会が「何か質問は?」とか「ご意見は?」なんて聞きますネ。大抵はシーンとしています。皆は「ハイ、大体賛成です。何も異論はありませんよ」とか「よくわかりましたよ。次に行ってください」とか思いながら黙っている訳です。これが九州あたりですと皆手を上げます。意見も質問も無くても手を上げます。指名されたら立ってから考えます。「私は今までの議論に大いに満足している。誰それさんの意見はとってもよかったです。」とか「さっきも言ったけど、あの問題はこれこれこうするのが一番良い。賛成してくれて本当に嬉しい。」とか。我も我もと同じ様な意見が続出して、司会は切り上げるのに苦勞する訳です。

私たちの子供時代は、先生が「わかる人手を上げて」なんていうと、回りを見回しながら「僕わかってるんだけど、一番先に手を上げて皆に「あいつ出袋ばり」なんて思われるのはイヤだし、誰も手を上げなかったら上げよう」なんて思っている。

つまり東北では目立つのは悪なんですネ。ところが九州は、目立たないのは生き残れない。まず手を上げる。背伸びして手を上げる。うまく指名されたらそれだけで目的は達成される。

私の知っている人が九州でちょっとした講演をした。時間が少し余ったので「何か質問はありませんか?」と聞いた。そしたら、全員手を上げた。その人は、「今までの私の話しはそんなに分かりにくい話だったのだろうか?!この数時間の努力はムダに終わったのだろうか!」と、ガックリきた。そうしたらどの人も次から次に、「とっても良かった」という話をする。終わったらどっと疲れたと、その人はしみじみと話してくれました。

生まれも育ちも違う人間が、大勢集まって暮らしている。互いを理解したいと思いつつ、理解の手立てを知らずに、軌道の中に生きている。でも、このテンプレートが一人一人の行動原理になっているという視点が一つに入ると、次からは、相手のテンプレートを知らうというマンウオッチングの旅が始まるのです。

「人間なんてこんなもの」と言う前に。

緊急レポート! NeXTが日本に やってきた。

by 荒木、徳富



暗闇の中のステージへ垂直に差し込むスポットライトが作り出した一本の光の束の中にタキシードを身にまとった一人の青年が浮かび上がった。ステーブン・ジョブズがついにわれわれの前に姿を現した。1989年7月10日午後1時30分から、千葉県浦安市舞浜にある東京ベイNKホールで、「NeXT Computer System Product Presentation Show」が開催された。会場にはマッキントッシュを生んだ男、ステーブン・ジョブズを、そして彼が新たに開発したNeXTというコンピュータをこの目でみようとして約2,500人(報道陣150人)の観衆が集まった。

この発表会ではまず、NeXTの日本での独占販売やソフトの日本語化などのリーダーシップを取るキャノンの山路敬三社長が挨拶、この中で「9月から英語版のシステムによるNeXTを販売し、ソフトの日本語版は来年から皆さんにお届けする」ことを明らかにした。その後、いよいよジョブズがステージの上に現われた。「皆さん、こんにちは」彼は日本語で観衆にこう微笑みかけた。そして、ステージにセットされたNeXTに向い、早速、プレゼンテーションに入った。ステージ正面の大きなスクリーンには彼が操作するNeXTに連動したモニター画面が映しだされ、それに合わせて説明が行われた。

「コンピュータのアーキテクチャーには10年の寿命があり、ソフトは革新的なアーキテクチャーの上で花開く。AppleII、IBMPC、Macintoshという流れの中でMacという第三の波は現在、成熟期に達している。私たちは第四番目の波を形づくるコンピュータを作り上げた」ジョブズはNeXTというコンピュータの持つ意味をこう解説した。そしてNeXTのアーキテクチャーそのものについてハード、ソフト面など様々な角度から明らかにしていった。

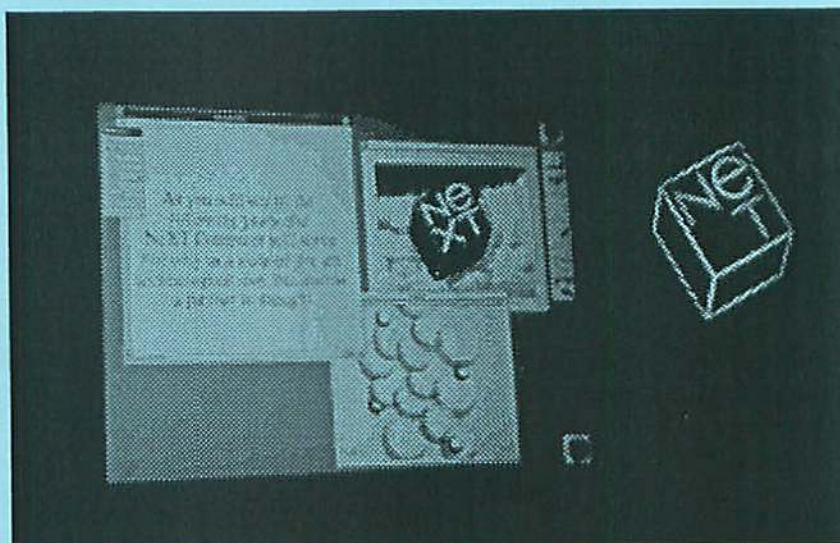
こうした彼の説明の詳細は紙面の都合上、逐一報告できないので、一つのシーンを取り出したみるとこんな具合だ。スクリーンに映しだされたNeXTの画面の上方には棒を鼻でバランスと取りながら立てる学習を続けるニューロシステムのアシカがおり、その下では256MB光磁気ディスクを使ったパーソナルデータベース環境とでも言うべきデジタルライブラリアンや、UNIXのコマンドなど全く知らない素人でも簡単にプログラムが作れてしまうハイパーカードをさらに進化させたようなNeXT独自のユーザーインターフェイスなどをジョブズがまるでピアニストのようにその手から奏でている……そしてそんなジョブズの説明の一時、一時がわれわれにとって新しいコンピュータとの、さらには90年代の新しい地平を切り開くテクノロジー環境との出会いだった、思わずそう言ってしまうような凝縮された時間だった。

途中20分のコーヒープレイクを挟んだ約一時間半にわたるジョブズのプレゼンテーションはあっという間に終わった。最後の方にはバイオリニスト

の天満敦子さんとNeXTの「共演」も行われた。そして最後に、ジョブズは「私達が最も信頼しているのはあなた方だ。Macの時も、IBM PCもそうであったように、このコンピュータを使ってこちらが夢にも思わなかったことを実現してほしい。我々はそのための材料となる粘土を提供した。90年代を切り開いていくのは皆さんののだ」と語り、この発表会を締めくくった。

この後、キャノン、NeXTによる共同記者会見が行われたが、この内容についてはMac関係の雑誌でも詳しく取り上げられるので記述は省略させていただく。私はこの発表会に出て、またしても、さすがのジョブズに徹底した思想と夢を思いっきりぶつけてくるアメリカの文化のようなものを感じた。それはMacと出会った時の衝撃と似ている。そして、ジョブズ氏に記者会見のなかで質問し、会見後、直接会い、名刺を交換できたことは何にも替えがたい貴重な経験だったと思っている。「今日はMacintoshを作ったジョブズの口からMacintoshという言葉だけを聞いただけでもよかった」(中島さん)、「僕たちがMacの世界はいい、いいと言ってるうちに作った本人はもっと新しい世界を既に作っているんですね」(徳富さん)……中島さんに送ってもらった自動車のなかでの道すがらこうつぶやいた二人の言葉が今だに私の耳に残っている。

(荒木)



Presentation screen of the show.

Photo by Araki.

まず、Mac FinderとAUX

Mac Finderの革命的特徴はアイコンとプルダウンメニューだと思う。ところがMacでマルチタスクを実現するためのAUX Shellにおいては、まったく残念なことに、Typeによってコマンドを入力し、命令を実行させるようになっている(MacWorld 10/1988)。個人的にはMac Finderのアイコンとメニューのコンセプトが大好きであり、それなくして何がMacかと言いたい。

NeXTのマルチタスクOS

NeXTの発表会で一番衝撃を受けたのは、NeXTのスクリーン上にいくつかのウィンドーがopenされ、それぞれの中で別々のアプリケーションが独立して動いているのを見たときだった。右下のほうのウィンドーの中では何かの分子構造のような3Dグラフィックスが滑らかに回転している。左上のウィンドーはワープロで、文字がたくさん並んでいる。ここまではMacのMultiFinderでも見られる光景なのだが、NeXTでは3Dグラフィックスが回転を続けたまま、ワープロがスクロールを始めるのだ。

真のマルチタスクを達成しておりな



Mr. S. Jobs and the NeXT. by Araki

がら、操作性はMacとほとんど同様、アイコンとポップアップメニューなのが嬉しい。

NeXTの大容量記憶装置

光磁気ディスクが標準搭載されている事ばかりが目立っているが、このほかに330Mbyteか660Mbyteの内臓型ハードディスクがオプション設定されている。どちらにしても大容量だ。

NextStep

NeXTの開発環境は単にMacをマルチタスクにしたものではなく、Macよりもさらにユーザーフレンドリーになっている。Macの場合、Mac流の優れたユーザーインターフェースを持ったプログラミングをしようとすると膨大な数のToolBoxルーチンを覚えなくてはならないようだ。つまり例のInside Macintoshに精通する必要があるのだが、NeXTの場合は、この点かなりHyperCard的であり、しかも、易しさではその上を行っているように感じた。NextStepというのがそれで、約40のオブジェクトによるインターフェースビルダーというToolが用意されているようだ。これによって、グラフィック方式でアプリケーションを作ることができる。荒木さんもお話しになっていたが、いわば進化したHyperCardというような印象だった。

25MHzでもやや遅く感じられるが、それはソフトのスペックがハードのスペックを超えているからだろう。

NextStepとIBM

しかも、このNextStepはS.Jobsにとっては今まで宿敵のような存在であったIBMとライセンス契約を結んでおり、それによってIBMは自社のUNIXコンピューターへこのNextStepを導入して行くことができることになってるらしい。ということは、NeXTで開発されたプログラムがIBMのコンピュー

ターでそのまま使えるようになるわけである。その逆もちろんOKで、これだけの好条件があればソフト会社がNextStep向けのアプリケーションを開発しないわけではない。もっともMicrosoftは、絶対NeXTのアプリケーションは開発しないと公言してと聞いているが、NeXTのパンフレットによればアドビ、アシュトンテイト、ロータス、アルダス、フレームテクノロジーなどの各社がソフトを開発中らしい。

さて、気になるのは日本語化だが、これも1990年、つまり来年中に実現するというのだからNeXT陣営のやる気をひしひしと感じる。

NeXTは素晴らしい。

ハード的に一番興味深いコンセプトは、3mもあるたった一本のコードで本体とスクリーンを繋ぎ、それらを離して使うように考えられているところだ。

また、バンドルされているソフトも実に充実していて素晴らしい。

数あるNeXTの素晴らしさの中で最も素晴らしいと感じることは、Apple II, IBM-PC, Macintosh, を経てアメリカのパーソナルコンピューター界が培ってきたものすべてが、初めから投入されていることであり、したがってその全身が、如何にもこれから発展していくための余裕に満ち溢れているように見えることだ。

そして最後に

今のAppleと意見が合わなくなってしまったS.Jobsが世に送り出したNeXTは、今のMacが抱えている難問を乗り越えたところがスタート地点になっている様に感じさせるほどnextであった。

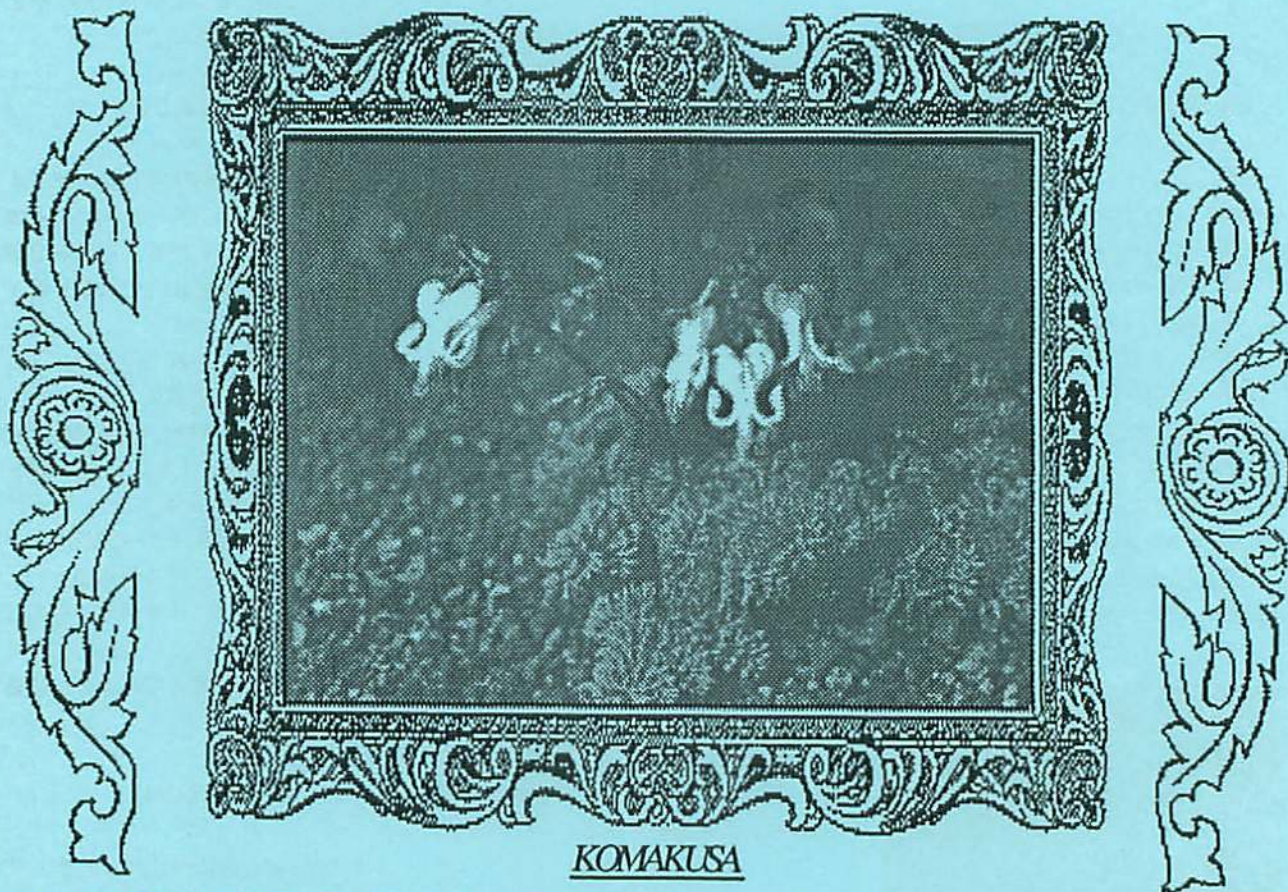
以前から中島先生が「僕が待っていたのはMacIIではなくてNeXTなんですよ」とお話をしたが、そのお気持ちがわかるようになってきた徳富でした。

高山植物の女王、それがコマクサです。その理由は美しく優雅なピンクの花と繊細な葉、更に他の植物を寄せ付けない様な石のゴロゴロした斜面に限ってみられ、いつも強い風にさらされて咲いている姿は、まさしく孤高を保つ女王に相応しく見えます。実際にコマクサを見れば、子供達がこのような悪い環境でも、けなげにたくましく育てて欲しいと願いをこもめて「こまくさ幼稚園」と名づけるのもうなづけます。咲き始めの花を横から見

ると、馬の顔に似ているところから、駒草の名があり、駒とは小馬のことです。この写真は秋田駒ヶ岳の駒草であります（カラーでお見せ出来ないのが残念）。

今年の高山植物は、例年よりほとんど1~2週間早いので、コマクサも

きっと早いだろうと思って7月1日（土曜日）の夕方から駒ヶ岳に登り始めました。途中で出会った初老の山のベテラン夫妻に「コマクサは？」と尋ねたら「早くて2週間後」と言われ、がっかりしていたらカメラを持った別の人に「咲いてますよ」と教えてもらい元気いっぱい、いつもの群落を目指しました。ちょうど霧がかかり、咲き始めのコマクサに雫がついて、理想的なシャッターチャンス！ご機嫌らしい女王陛下から拝謁の榮譽を賜ることが出来ました。2~3年前からコマクサ



KOMAKUSA

の良い写真を撮りたいと思っていましたが、保護のために近づくことが難しく、更にいつも風が吹いていてブレてしまい満足できるのが撮れませんでした。まだ納得行くものではありませんが、今年は3週連続秋田駒ヶ岳に通い全力を尽くしたと思っています。

女王と言うとだれしも英国のエリザベス女王を思い浮かべると思いま

す。斜陽の英国をサッチャー首相と共に支えている、英国紳士もそれなりに納得しているのではないのでしょうか。翻ってわが日本においてはヒミコ以来何人かの女帝はいたようですが、今後はすぐには出来ないと思います。しかし、自民党のここ1~2カ月の動きによっては、女性首相も生まれる可能性も否定できません。女性を馬鹿にすればこのようになるの知らない老人共

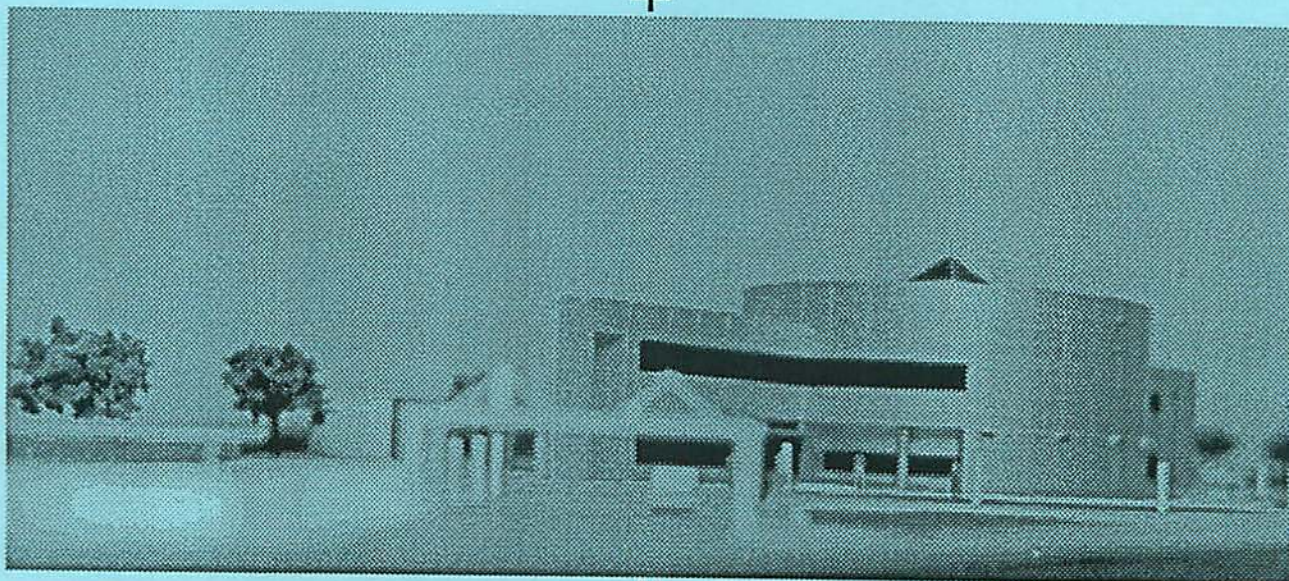
のせいです。今の子供達は、ほとんど女性教師に教えられて育ち、真面目に勉強する女性に追い抜かれることも多く、対等の付き合いになっている感じがします。20~30年後は女性首相を覚悟しなければなりません、いまは少し早いような気がします。それぞれの家庭で政権を握っているだけで満足してもらいたいものです。

「林檎」ギャラリー

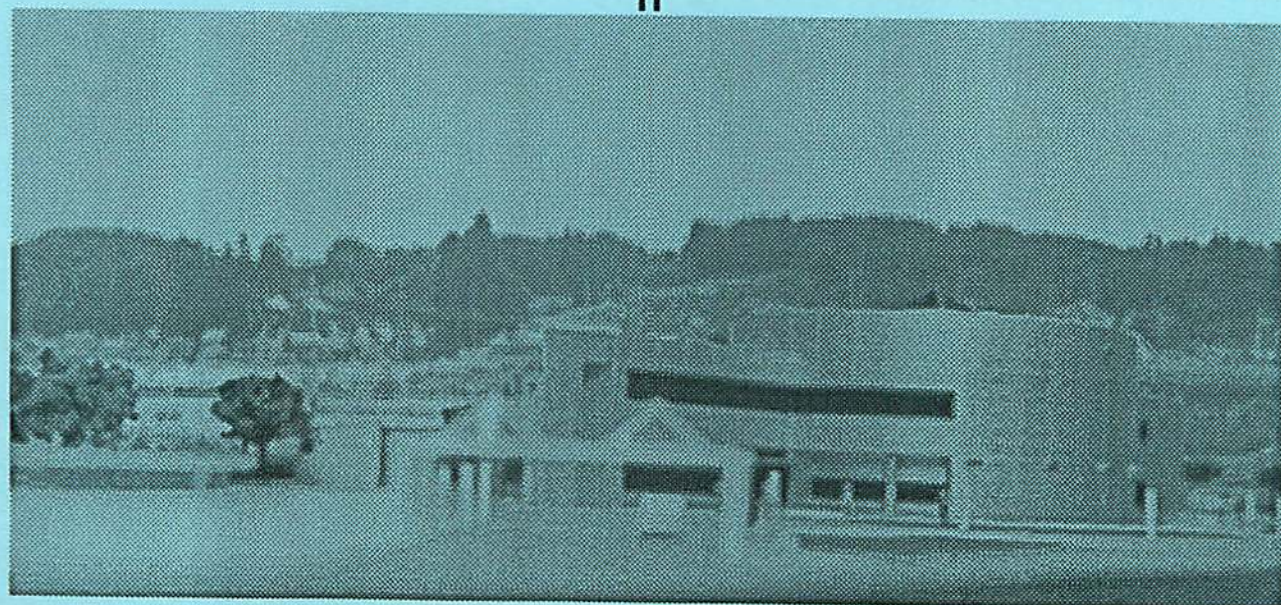
...by Kou TAKAHASHI



+



||



DigitalDarkroomにより合成したものです

Archi Net Now

高橋 晃

今回紹介するArchiNet [アーキネット] は建築(設計、施工、その他)に関係する人を中心にしたBBSです。約4年ほど前に開設され、現在会員数600名以上を抱える建築界一のNetWorkで活発な活動をしています。

この紙面でも紹介されたNiftyの中にもArchiNetとのインターフェースとなる「建築フォーラム」と言うSIGがあり建築界以外のネットワークとの積極的な意見を交換をしたり、一般の方からの住まいに関する質問を受け、専門的な立場での解答をしたりしています。

さて今回の「ArchiNet Now」ですが、「林檎」の性格上、誰でも入会できて共通の話題がある、一般的なBBSを紹介するべきだと思いますが、今回2pageもの特集を提供頂いたのは、このBBS上で「Macは仕事(もちろん設計や建築の)に使えるか」というテーマが議論がされていたことと、建築界でもMacを使ってのCAD,CG,DTPRが仕事で使えそうじゃないかと言った認識がされ始めてきたこともあり、そのMacに関連した書き込みの一部を皆さんに紹介させていただきます。

(このBBSの情報は、Niftyのフォーラム経由で入手できると思います。)

●マウスに関してこんな意見もあります。

Macのマウスボタンはなぜ1つなのか?

私はMacのマウスボタンが1つであることを知り、アメリカ人というのは噂通り不器用なのかと当初は思いましたが、カルコンプのタブレットカーソルに多ボタン(10⁺ボタン)のもの

があるのを見て不器用説は引込めました。

昨夜のNHKスペシャルに出て来たハイテク放浪者を見ましたか? 自作のコンピューター、FAX、電話などを自転車に組み込み(電源はソーラーセル)恋人と一緒に旅をしているアメリカのライターの紹介。いやはやすごいやつがアメリカに居るものです。彼は自転車(自動車にあらず)に乗りながらワープロを打てるのです。ハンドルの中央に付けた液

晶ディスプレイは理解できませんが、なんとキーボードはハンドルグリップに組み込んだ8ボタンキーボード。8つのボタンのON/OFFで256文字(つまり8ビット)を打ち分ける仕組みになっているそうです。

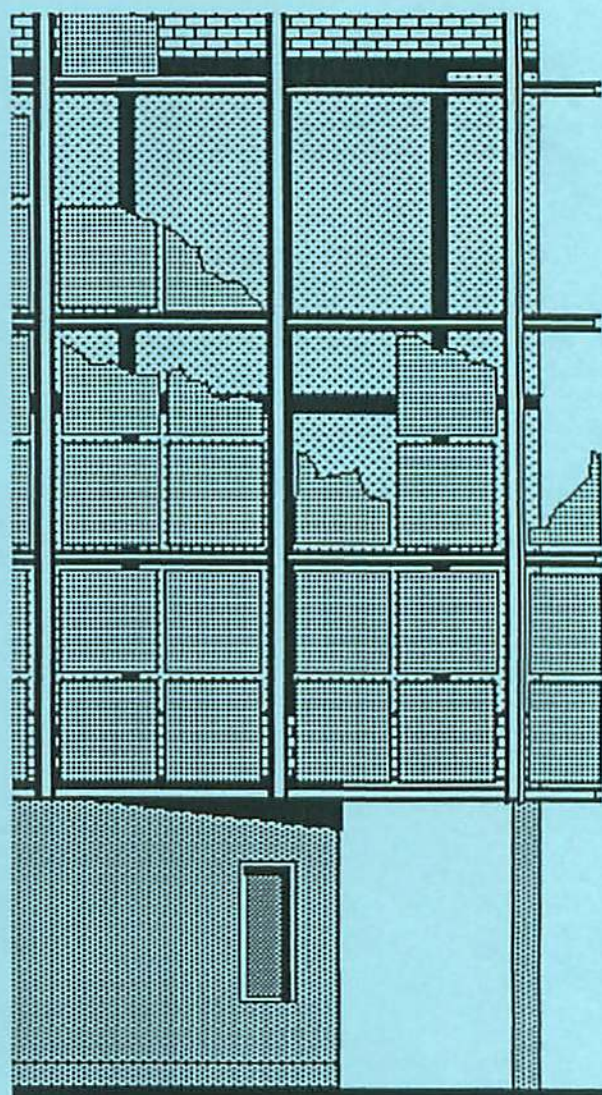
マウス動かすのに2本の指、あと3本指が残っているのですからボタンが3つあれば丁度いいわけです。(あるいは6ボタン、9ボタン)何かをしたいと思えば、指がビクッと動いて、ただちに機械が反応する。これこそ理想的マン・マシン/I/Fではないでしょうか?

●Macのプレゼンテーションについては、すでに盛岡Mac「友の会」では、常識といった感じがしますが、

「我々の日常の仕事においてプレゼンテーシ

ョンをどう評価するかにかかっているといえそうです。今後は、業務形態のいかんを問わず、仕事を進める上でプレゼンテーションの質が問題となってくることは必然的な成行きだと思います。社外に出す資料や報告書はもとより、簡単な社内文書でも見た目の美しさと分かり易さが要求されるようになるはずで

特に我々のように建築の分野で仕事をしている者にとってプレゼンテーションは命といっても言いすぎで



はないでしょう。単に図面を描いてそれを施主や、関連する業者に提供するだけで済まなくなってくるはず。我々は、学生のときから2次元の図面から3次元の物体をイメージする訓練を受けてきましたが、我々が相手をしている大半のユーザーは素人なので、ただ2次元の図面を見せても我々の意図が正確に伝わることは期待できません。できるだけ正確に完成した状態を伝える努力が必要になってきます。現在建築界は、未曾有の好景気に沸きかえってプレゼンテーションがそれほど問題とされないし、また時間をかける余裕もないかもしれません。しかし、いずれはプレゼンテーションが問われるような社会環境になっていくものと確信しています。このような傾向は、単に3次元画像や色彩のシュミレーションに限らないでしょう。企画書1枚書くにも効果的なプレゼンテーションを考える必要が出てくると思います。

勿論、プレゼンテーションが行きすぎて、内容のないものまで飾りすぎることで、本質を隠してしまうといった傾向に走ることもあるかも知れません。しかし、正確なコミュニケーションとしてのプレゼンテーションの質をあげる努力がこれからはますます要求されることは時代に必然と考えるのですが。このような、観点からMacというパソコンを見るとハード、ソフトが実に良くできていることに気がつきます。

ちょっとした会議でも、気の利いた報告書が出されるとつい耳を傾けたくくなります。こういった作業がそれほど作業量を伴わずできるようなパソコン環境に最も近いのがMacだといえるようです。Macに可能性を感じるのはこの点です。画像関連のデータの互換性の高さと操作の容易さは、さまざまなプレゼンテーションを手軽に作成できそうな気分にはさせてくれます。また、もしそのソフトに精通すれば高品位な画像を作ることもできそうです。

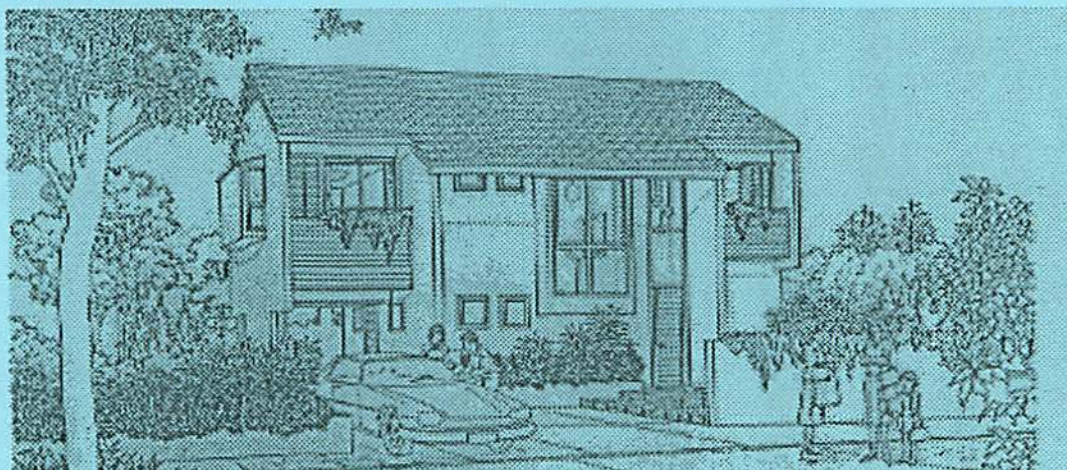
.....

以前「Macは仕事に使えるか」と言うことでこのネット上で論争をしたことがありました。久しぶりに活気があっておもしろかったという人もいたが、場違いな発言もあったりしてそんなに気持ち良く意見を交換したという感じがしなかった。またその蒸し返しでもないが、あのときの論点を振り返って整理をしながら少しづつ理解が深まってきたMacについて論じてみたいと思います。

まず「Macは仕事に使えますか？」という質問はこれは極めて用意周到の質問だったなという感じがします。他人がどんな仕事に使おうとしているのかが分からないのだから、この点は誰にも答えようのない質問です。「あなたは自分の仕事に使っていますか？」という質問なら答えることができるはず。このところ連日、英語のマニュアルと首っ

引きで各ソフトの性能を見きわめております。やはりMacの最大の弱点はCADだということは間違いのないところ。CADは早くて性能の良いCADは見あたりません。Versa Cadは高性能のCADでハイパーカードとのリンクなど見るべき点が多いのですが、何しろあのスピードではとても使えません。その他のCADも一長一短のようです。

MacがPCより明らかに進んでいると思われるのはプレゼンテーションの環境です。今日、昔の論争を敢えて蒸し返したのはこの点を再度述べておきたいと思ったからです。プレゼンテーションを行うためには単に特定のソフトがあるからといってそれで済む問題ではありません。データの入力から出力までその環境が整っていることが必要なのです。出力ではフィルムプリンターです。これはPC用のフィルムプリンターの大半がアナログ対応なのにたいして（つまり画面のハードコピー）デジタル出力対応なので4000ラインとか8000ラインとかいっております。現在のところ256カラーですが、すでにフルカラー対応のレコーダーも出ております。400~500万円前後のカラープリンターに比べてハイクオリティな出力を比較的安い値段で得ることができます。現在のところPC対応のデジタルフィルムプリンターが皆無とはいませんが実際に使用できる環境は十分に整っていないようです。



会員だより

ぼやき

つぶやき

ひとりごと

今回は、FROMBBSをお休みして、通信に参加していない人にも、紙の通信をいただき、会員便りをお送りします。

今回書いていただけなかった方々、次の号には是非メッセージをお送りください。

◎三浦利章

ハイパーカードとお友達になりたい。ハイパーカードとお友達になって、毎日、使いたいと思うんですが、名にしろ時間が取れなくて、まだ、1つしかスタックを作れないでいます。そのスタックも手を加えなくてははいけませんが、初歩のことしかわからなくて、次への展開がわからない状態です。早く思うとおりにスタックを作りたいです。よろしくお願いします。

◎望月善次

「総会会員」からの脱出なるか。例会への出席を誓ったのは、つい先日だったような気がするのに、今年度も、総会以降は出席できずにいる。つまりは「総会会員」である。業をにやしたか、われらが大河原先生は、「エクセル入門秘密特訓講座(?)」を企画中らしい。さて私は、「総会会員」から脱出できるのだろうか? それは、次号のお楽しみである。

◎杉村栄一

毎月の例会、編集会議等、回を重ね

る毎にますます活発になり、皆さんの熱心な行動には感心させられます。

8日には、Hyper Cardのセミナーが予定されており、今から楽しみにしております。

皆さんの真剣な顔を見てるとMacを販売できて、本当に良かったと一人で満足している今日此頃です。

◎谷口和美

今日、たった今入会させていただきました。

岩手科学社の村上さんに、たきつけられ(??)て、MacPlusを手に入れることにしたからです。

なんだかとても楽しい世界が目の前に広がりそうでわくわくしています。どうぞよろしくお願いします。

◎照井芳夫

Mac購入の目的は、

- 1 会社では電算担当なのに、少しも自分の身の回りの仕事はOA化が進まない。
 - 2 これまでのパソコンでは使う気が起きない。
 - 3 Macを通して新しい世界が開けるかも知れない。
- でした。
- 1はまあまあこれから、2は申し分なし、3は友の会あつての事、申し分なし。

◎熊谷朋也

PlusのオールドUserは、現在、新規Userにバカにされながらも、ひそかにある事をたくらんでおります。その時をお楽しみに……。

◎沖野 覚

Mac Lifeのプレゼント当たっちゃった!
ある日、BNN社から大きな封筒が届き、空けてみると「ハイパーカードスタックウェア開発技法(上下)」(BNN社¥4200×2)が出てきてビックリ!
又もや、マックライフプレゼント当

選、前回は「酒と肴」ソフトが当たりました。それも11、12月号連続です。

ラッキー、ラッキー、確率最高、「それならば……」と皆さん、張り切ってもらっては確率が下がりますから、控え目に願います。私、これからは張り切ってプレゼントをねらい続けます。

◎高橋 晃

Macのカラー環境はいいが……
MacIIを買ったが運のつき。納得のいく環境を実現するには、さいふがすっかり風邪をひきっぱなし。最近、SE、Plusのユーザーがうらやましくなってきました。使えば使うほど職場で使いたくなってきますね。Mac IIは、ちょっと自宅から職場に持ち込むには大きすぎます。でも、やっぱりMac IIはいい……。

◎徳富 亘

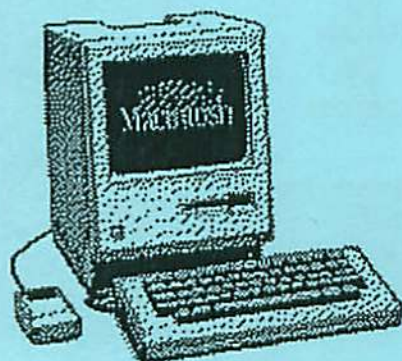
COMMENTについて。
COMMENTはいいですね。私のみつけたバッチあてるとさらに便利になりますよ。
Prodigy4が路傍の石(CPU)になりそうで、この世の進歩の早さを改めて思い知り、うれしかったり、さみしかったりの今日このごろの徳富でした。

◎大河原 清

明日こそは。
月に一度マック友の会があることは大変心強いことである。マックの学習のためのベースメーカーとして役立っている。私は教育のためのマックの利用を考えているが、なかなか真剣に取り組む時間が作れない。よくよく考えてみると、差し迫った要望がないというより、マックでなくとも代用品(例えば、日本語ワープロやPC-9801など)があり、しかもこれらは、極めて使い慣れているので、なかなかマックだけに移行ができないのである。
しかし、最近、マック友の会に継続参加することで、益々マックの価値を

見直すようになってきた。このような訳で、学内の望月会員ともハイパーカードの勉強を始めようと誓ったのですが、お互いに仕事が忙しいのでなかなか取り掛かれないのが実情です。

岩手マック友の会の皆様には、会長の野村さんをはじめ今後も大変お世話になると思います。よろしくお祈りします。



◎浅田 昌稔

つい先日、HDが故障してつくづく感じたことを一言、

うーんっ、やっぱりHDがないとあの簡単便利なMACの数々のコトが、やけに使いにくいFDの入れ替えに終始したあげく、しまいには、システムが動かない事態に陥ってしまうということでした。HDが当たり前になってしまった自分と、MACに疑問を持つ浅田でした。

(パソコン用のHDが欲しいよう！)

p.s.最近、気になっていること

思い過ごしかも知れませんが、最近の、アップル社はどっか焦っていませんか？

今一つコトみたいなのが、はやけているような、目先が変わればよいみたいな感じにも取れる製品とか多いような気がします。もっとも、国内のメーカーのようなコトが無いところは違いますが。

◎根本 聡彦

八戸にいますとさらに北に住むMACuserからmailが届いたりします。八戸にあるもとNTT系列のショップやniftyの青森フォームを通じて連絡したりしています。六ヶ所村や猿倉温泉にもMAC同士がいるんですよ。この不思議な親近感はずがMACの魔力なのでしょうね。

◎米谷 則美

私のはじめてMacの存在を知ったのは5年程前の事だったと思います。当時は自分専用のComputerをもっておらず、いつの日にか購入すべき機種を選定しようと雑誌をながめていたところ、そのかたすみに白黒写真とともに“米国APPLE社新型computerを発売”との記事が載っていたのを記憶しています。今までのどの機種とも形が異なったall in oneのcomputerとのimageをもちました。それにしても本当にこんなもので仕事ができるのだろうか？それにしても高いなあ(当時70万円台)と思いつつそのまま読み飛ばしてしまいました。その後大学院での仕事のため、某スーパーで店頭展示品のNEC PC8800を購入。自分の研究テーマである“呼吸時の肺内ガス圧縮”についてのデータ処理に利用しました。しかし1枚のグラフをデジタルライザーで入力し縦横比を変換してX-Yプロッターに再出力させるのに約50分を要するという処理の遅さと、時々誤動作する使い勝手の悪さに泣かされる毎日でした。そんな研究も一段落したころ、日本版サイエンスのうら表紙にCanonがMacの代理店となる旨の記事が載りました。軽い気持ちで資料を請求。これが現在のMacと私との出会いとなったの

でした。資料が届くと思っていたのにKIZYAのS氏が訪れてデモ機をみせてもらい、即日EXCELとMac Plusの購入を決定。以来学会シーズンが近づくとEXCELで検査データの集計、Stat Viewで(ちょっと一混乱ありました。が..)統計処理、そしてSuper Paintでプレゼンテーションスライドの版下を作成して放射線科のレーザーライターでプリントアウトしたりと大活躍。シーズンオフには世界平和を祈りつつFalconでミグの撃墜にMacDrawを使って娘のお遊戯の伴奏にと、ほぼ毎日稼働させております。(最近はゲームはほとんどしなくなり、学会前だけのMac季節労働者となりつつあるようですが..)今思えば大学院での仕事にもMacを使っていれば何分の一かの労力ですんだものを..と、失われた青春(?)を憂う今日この頃です。今後のMacの利用計画としては、現在の路線に加えてまだ十分活用しているとはいえないHyperCardの開拓と通信ネットの拡大、そして経済的に許されればそろそろ発売秒読みとされるラップトップSEの購入など、比較的堅実な路線で行こうと思っております。今後ともよろしくおねがいいたします。

◎村上 弘行

MacLife 11号に11じゃなくても総天然色と言う記事を読みました。Aura Systems社Mac512K.Plus,SEをカラー化するという記事を見て、もしMac IIのソフトが走るとすればぜひ、アクセラレーターよりも一番欲しいですがこれ以上詳しくわかりません。何方かこのことについてご存じの方が居ましたら教えてください。





余計なお世話 ...by 野村行憲

Finderネタも残り少なくなってきました。今回はマック以外の機種では考えられない、便利な機能として、FinderによるドキュメントのPrint機能について、余計なお世話します。

右の画面を見てください。これはPageMakerで作成した2つのドキュメントをプリントしようとしているところです。見て分かるように、この画面はFinderが動いているところで、PageMakerはまだ動いていません。どのような操作をしているかという、PageMakerで作成した、「林檎4号野村-1」と「林檎4号野村-18」の2つのドキュメントをマウスでセレクトし、FinderのFileメニューからPrintを選択したところです。

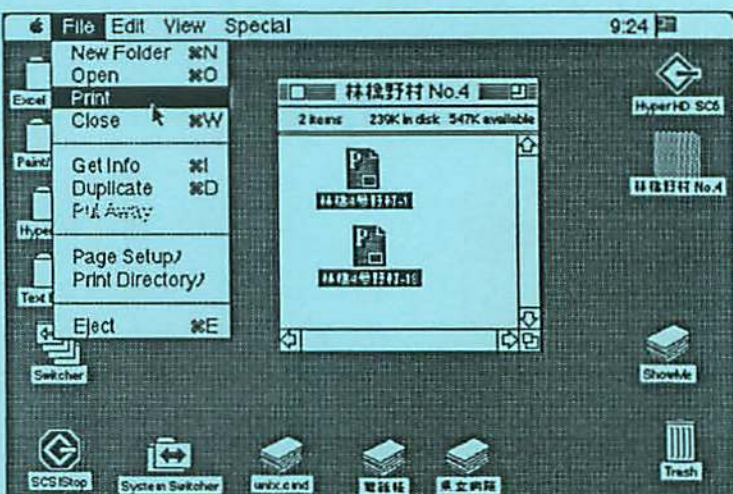
こうすると、Finderはセレクトされたドキュメントを記憶し、そのドキュメントを作成したアプリケーション探して起動するとともに、記憶していたドキュメントをプリントするように、アプリケーションに指示します。全てのドキュメントのプリントが終わると、アプリケーションを終了して、Finderに戻ります。

もし、Finderにこのような機能がなかったら（あるいは、この機能を知らなかったら）次のような手順になりますね。

プリントしたいドキュメントの一つをダブルクリックして、アプリケーションを起動します。そうすると最初のドキュメントがオープンされるから、アプリケーションのファイルメニューからプリントを選びます。プリントが終わったら、そのドキュメントをクローズして、次のドキュメントをオープンして...といったことを繰り返し、最後にアプリケーションを終了します。

Finderにこんな便利な機能が有ったことを皆さんはご存じでしたか？すでに活用している人には余計なお世話でしたが、使っていない人も多かったのではないですか？この機能は、もちろんマニュアルに書いてあります。

マニュアルはマックを購入したときに、サッと読んであとは全く見ていない人が多いと思います。（実は私もですが）特に最近では操作説明のフロッピーディスクが提供され、全くマニュアル



の必要性が無くなったかに見えますが、実際のところ、マニュアルには、ためになることがたくさん書かれています。そして、購入して間もないころと違って、有る程度知識が付いた時点で読み直すと、便利な機能や、もっと簡単な操作などを発見できるかと思えます。

おっと、言い忘れましたが複数のドキュメントを一度にプリントする場合は、同じアプリケーションで作成されたものである必要があります。

ところで、マックではあたりまえの、ドキュメントをダブルクリックすると、それを作成したアプリケーションが起動され、そのドキュメントがオープンされるというのは、マックOS独自の優れた機能です。さらに、前述のようにドキュメントのプリントまでが、このように簡単にできるのは、マックOSの下で動作するアプリケーションが、その様な機能を受け入れるように作られているからにほかなりません。

このようにマックOSは、その下で動作するアプリケーションに制約を与えていますが、その制約のおかげで、利用者には色々なアプリケーションを統一された操作環境で使うことができる特権が与えられているのです。



すっかりお忘れの方々へ

臨時増刊号のお知らせ(原稿下さい)

3号で「自己紹介特集号」の原稿を会員の皆様をお願い致しましたが、まだ原稿をお送り頂けない方が大勢いらっしゃいます。優柔不断にも締切を延長いたしたいと思っておりますので今度は宜しくお願いいたします。

お寄せいただきたい項目は前回同様、次のとおりです。

- 1 名前、生年月日
- 2 BBSのID番号
- 3 職業
- 4 住所、電話番号
- 5 Macの機器構成
- 6 趣味
- 7 会員へのメッセージ
- 8 自己アピール
- 9 Macをどう使っているか

以上の項目をワープロソフト等で入力したフロッピー及び顔写真を8月末日までに下記の住所までお送り下さい。(フロッピー、写真はお返しします。)既に掲載された方で書き直したい方もどうぞ。

025 花巻市愛宕町3-19

徳富 亘

IMF 掲示板

第2回Macセミナー開催決定!! 奮ってご参加ください。

日時 9月9日(土) 午後2時~5時
 場所 盛岡上田公民館 第1集会室
 テーマ 押してもダメなら...
 -ハイパーカードのボタンを作る-

案内役 福田健次
 参加費 会員 1,000円 / 非会員 2,000円

編集後記

この夏は、日照りの夏でオロオロ歩いておりました。冬は雪が少なかったため、山には水が無かったのです。原稿書きどころか、編集委員の方々に連絡さえもせんでした。平にご容赦。水商売の悲哀を味わった福田でした

いやあ、ギリギリだったなあ。今回は4回目で慣れっこになった油断からか、原稿の集まりが悪くハラハラしました。さら

に、公私ともに本当に忙しくなって「休刊」の文字がチラチラしていましたが、何とかできましたね。ホッ! (野村)

今回は堂々の3ページを担当。「後悔先に立たず」の諺の意味を噛みしめました。が、しかし「喉元過ぎれば何とやら」という事で、懲りない面々の末席を汚しています。(照井)

何だか一杯汗がでました。あ、夏でした。白々しい徳富でした。

唯々疲れました。(高橋)

次回Macギャラリーに挑戦して見よう(杉村) 89.8.8 3:00 AM

会員名簿

Dick Harry	盛岡市
Evelyn Harry	盛岡市
Richard L Lammers	盛岡市
浅田 昌裕	和賀町
浅沼 清智	花巻市
浅野 恵治	花巻市
荒木 健次	東京都
伊崎 誠一	盛岡市
大河原 清	滝沢村
沖野 覚	二戸市
小沢 徹	盛岡市
桂川 茂彦	盛岡市
兼平 信一	盛岡市
菅野 卓	盛岡市
工藤 道範	盛岡市
熊谷 朋也	盛岡市
香村 孝磨	盛岡市
小松 寿夫	北上市
斎藤 武	盛岡市
斎藤 武	盛岡市
佐々木 幸司	盛岡市
佐々木 俊光	胆沢町
佐藤 護人	盛岡市
猿橋 浩昭	北上市
淡谷 誠隆	盛岡市
白石 健蔵	盛岡市
菅原 栄一	盛岡市
杉村 是光	盛岡市
鈴木 卓	軽米町
瀬川 昌男	盛岡市
戦場 博和	盛岡市
高橋 浩一郎	盛岡市
高橋 晃	盛岡市
武元 伸次	盛岡市
田中 慶司	盛岡市
谷藤 幸夫	盛岡市
照井 恒	盛岡市
照井 芳夫	花巻市
徳富 亘	花巻市
中居 賢司	盛岡市
中島 順	流山市
西島 光茂	盛岡市
根本 聡彦	八戸市
野村 行憲	盛岡市
平野 三千代	盛岡市
福田 健次	盛岡市
藤村 洋	盛岡市
本多 健一郎	盛岡市
米谷 則美	盛岡市
真館 貞治	盛岡市
松倉 拓次	盛岡市
三浦 一之	都南村
三浦 利昭	盛岡市
三浦 吉範	浄法寺町
三田 光男	盛岡市
村上 誠一	盛岡市
村上 弘行	盛岡市
村川 寿	沼南町
望月 善次	盛岡市
本館 康司	花巻市
森 貞吉	盛岡市
山本 淳	千蔵町
吉田 新二	盛岡市
吉田 裕	盛岡市
吉村 弦	盛岡市
和田 政男	釜石市?
	矢巾町

名簿の更新が遅れています。新入会員の方々ごめんをさい。



「林檎」4号は...

ASLTalk
ByWord
Color Magician
Digital Darkroom
EG-Bridge
EG-Word
Freehand
Illustrator
MacPaint
MacVJE
NinjaTerm
PageMaker
QuarkXPress
SuperPaint
Sweet JAM
TurboJip
TurboWriter

等で作ったものをPageMakerでまとめて、LaserWriter II NTX-Jでプリントしました。

1989/8/10 創刊第4号
発行 岩手Mac友の会
代表 野村行憲
盛岡市月が丘 1-1-36
